

納得できる旅立ちのために road map

はじめに

老いて死ぬことが避けられないものであるならば、できるだけ良い最期の時を迎えたいと願うのは、当然のことでしょう。

しかし21世紀の日本では、納得して心穏やかに旅立つことがなかなか難しくなっているようです。

いつの間にか、病気や死は専門家にゆだねるべきものとなってしまいました。

高齢者が病気になったときには、完全に回復するというよりは、病気と折り合いをつけながらの生活を新しく始めるようになる場合が多いため、回復後の日々の暮らしの質をいかに高く保つかが、大事な要素になってきます。

しかし病気の「治療」にあたる医療現場では、退院後の患者の日々の暮らしや生き方に十分に配慮した対応や指導がなされているとは、必ずしも言えません。

また患者やその家族も、「治療」さえすれば無条件に元通りの暮らしを継続できるという思い込みを持つことが多くあり、時には治療や医療的な処置が本人の生命の質や尊厳を損なう場合もあることには、思い至りません。

その結果、本人にとっては今何が起きているのか、これから何が起きるのかについての正確な情報や知識がないままに治療を続けて、治るつもりでいたのに不意打ちをくらうように亡くなることもあるでしょう。

また逆に、このような状態でいつまで生き続けなければならないのかと、人知れず苦しむ場合も少なくないでしょう。

この企画では、疾病の解説からその進行とそれに対応する治療や関連事項を示しながら、旅立ちまでのプロセスを時系列でみることができるよう、チャートを作成してみました。

もちろん、疾病の程度は様々ですし、個人差は非常に大きなものですから、すべてがこのような経過をたどるものでないことは、いうまでもありません。

しかし、病気の治療としておおよそどのような選択肢があるのか、その内容も含めて知っておくこと、それを知ったうえで、自分自身をとりまく環境や価値観に基づいて、どのような選択をするのか、また旅立ちのときまでにどのような準備をしたらよいかを、あらかじめ考えておくことはたいへんに重要であると思います。

チャートづくりに当たっては、ある個人を想定して生活環境や習慣、個人的な価値観なども示し、その個人が日々の暮らしをできるだけ快適におくる上で大事なことは何かを考えるという、Quality of Life(QOL)優先の立場をとっています。

旅立ちまでの過程において必要とされる準備や、逆に避けるべきことなどについては、以下の観点から説明を加えてみました。

- * 治療の選択肢
- * 知っておいた方がよいこと
- * 注意すべきこと
- * 用語の解説

この企画を通じて、特に注意が必要と考えたのは「治療」の意味でした。一般的に「治療」とは、それを行えば病気がすっかり治ることのように理解されがちですし、広辞苑にも「病気やけがを治すこと、また、そのために施す種々のてだて」と記述されています。

しかし高齢者医療の世界では、「治療=治る」ではないことはむしろ当たり前で、その認識のズレが、医療者と患者や家族との間の不幸な誤解の原因になっている場合も多いのではないかと考えました。

医療の世界で使われる「治療」を、以下の4種類に大別してみました。

- A 予防的治療** ……高血圧に対する服薬など
- B 治癒目的治療** ……がんの摘出手術など
- C 緩和目的治療** ……痛みに対する鎮痛剤など
- D 維持・延命治療** …人工呼吸器・人工栄養など

もちろん、治療の選択肢は一つではありません。
また患者個人によって、最善の治療法が違ってくるのはいうまでもないことです。
治療の選択にあたっては、以下の点についてあらかじめ医師に確認をして、
納得したうえで決断することが望ましいでしょう。

- ① 治療の目的と目標及びメリット・デメリット
- ② 治療に要する期間
- ③ 治療に要するおおよその費用
- ④ 治療の結果日常生活や介護に生じる影響

独り暮らしの高齢者が劇的に増えることになる超高齢社会日本では、誰かに自身の人生の最期をゆだねることはできなくなります。

できるだけ穏やかな最期を迎えたいという願いは誰もが持ちますが、老衰で亡くなる場合でも苦痛や痛みを伴う場合もあるようです。何の苦痛もなく眠るようにという願いが叶うかどうかはわかりませんが、少なくとも自分で納得できる旅立ちを迎えることは、私たちにとって最後の、そして最大の仕事になってくるのだらうと思います。

この記事が、人生の締めくくりを考え始めるにあたっての参考となれば、幸いです。

記事をまとめるにあたっては、以下の方々のご協力を得ました(敬称略)。

- 辻 彼南雄** 一般財団法人ライフケアシステム代表理事・医師
香川 美里 香川法律事務所所長弁護士
中島 朋子 東久留米白十字訪問看護ステーション所長
河 正子 NPO法人緩和ケアサポートグループ代表理事
角田とよ子 社会福祉法人浴風会 介護支え合い電話相談室長